

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	ブリスト	Lv.1:	アコライト	レベル	21
サポートクラス	シャーマン	Lv.1:	メイジ	性別	男
称号クラス				年齢	22
種族	フィルボル			境遇	義理の親
出自(効果)	ろくでなしの父親			目標	強制

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	12	9	12	30	34	31	9
ボーナス	4	3	4	10	11	10	3
クラス修正	0	2	0	2	0	3	1
他修正			1		1		
能力値	4	5	5	12	12	13	4

HP	157
MP	200
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	稲妻の杖S1	至近	-2	9	0	0	0	-2	0
左手			0		0	0	0	0	0
頭部	稲妻のサークレットS1					3			
胴部	稲妻の帷子S1				-1	7			-1
補助	稲妻のマント					3	1	2	2
装身具	稲妻の聖印								
能力値			5	0	5	0	13	17	9
スキル	ニンブル、ダグデモア							5	
その他	防衛部隊					4	4		
総計(右)			3	9					
総計(左)			5	0	4	17	18	22	10
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	12			12	+ 2 d
トラップ解除	5			5	+ 2 d
危険感知	12			12	+ 3 d
エネミー識別	12			12	+ 2 d
アイテム鑑定	12			12	+ 2 d
魔術判定	12			12	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
ベルトポーチ	
異次元バッグ	耐毒符*2
	転移の呪符
ポーションホルダー	制空結界印
↳HPポーション*1	勇気のホイッスル*5
↳ハイHPポーション*2	
↳MPポーション*1	野営道具
	キャップライト
ハイMPポーション*2	小道具入れ
ハイMPポーション*4	↳ロープ
毒消し	↳火打石

現在重量:	25	所持金:	236280	預金・借金:	
最大重量:	36				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ニンブル	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	作成時に行動値+3							
プロテクション	5	3-1	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果:	対象が受ける予定のダメージに-[SLd]							
アフェクション	★		DR直後	20m	単体	自動成功	シナリオ1回	
効果:	対象が受けるダメージを0に							
	1							
効果:								
クイックヒール	★	5-1	イニシアチブ		自身	自動成功	シーン1回	
効果:	《ヒール》と同時に使用。《ヒール》をイニシアチブに使用可能になる。							
	1							
効果:								
フェイスバード	★	2-1	セットアップ	シーン	場面(選択)	魔術判定		
効果:	自分が修得している《フェイス:~》の効果を対象に適用する							
	1							
効果:								
マジックブラスト	2	3	ムーブ		自身	自動成功		
効果:	「対象:範囲(マジックブラストのSL*2)体」に変更							
	1							
効果:								
グローリー	★	2-1	ブレッシング		自身	自動成功		
効果:	ブレッシングの射程を20mに変更する							
ブレッシング	★	6-1	メジャー	至近	単体	魔術判定		
効果:	対象が行う判定に+1D。ラウンド終了まで持続							
ヒール	★	4-1	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果:	対象のHPを[3D+CL*3]回復							
フライト	1	4	メジャー	至近	単体	魔術判定		
効果:	対象を飛行状態にし、移動力に+[SL*5]							
レイズ	1	10-1	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果:	対象の戦闘不能を回復し、HPを【2D】点に							

本当は冒険者になつてなるつもりはなかった。一神官として無難に一生を終えるつもりだった。それなのに「お前には冒険者になってほしい」という両親の願いを無碍にすることもできず適性試験を受ける羽目に……そしてなんやかんかで今に至る。

母親は物心もつかないうちに外に男を作って家から出て行った。父親は動きもせず陽の高いうちから酒浸り。ライルが必死に稼いできた僅かばかりの金を取り上げては安酒を買い漁り、浴びるように飲んで鬱憤を晴らすために実の息子が暴力を振るう。そんな飲んだくれのろくでなし、クソッたれの父親の顔を伺い少しでも殴られないようにするために、他人の顔をうかがうのが得意になった。父親が死んだ後、自分もそのまま野垂れ死ぬのかとぼんやり道端に蹲っていたところを神官の老夫婦が発見し、養子となった。最初の頃は老夫婦の親切を信じるのができずぐしゃくとしていたが、今では2人のことを自分の本当の親のように慕い大切に思っている。





